

## 第三者の支援による住民参加型のプラットフォームづくり

### 芝園かけはしプロジェクト 高橋 明日香

住民主体の地域共生活動の推進には、多様な住民の意見を吸い上げながら、そのニーズに基づいた地域づくりを進めていくプラットフォームが必要になる。その構築には、住民が主体的に意見交換をする機会が重要である。しかし、世代や国籍など、異なる背景を持つ住民同士の間では、意見交換の実現が容易ではない。そこで鍵となるのが、住民以外の第三者である。その第三者が住民間の仲介者となって、住民同士の対立や問題を解決しつつ、より交流しやすい機会を創出することが可能となる。

私の所属する学生ボランティア団体「芝園かけはしプロジェクト」は、高齢者の日本人と若者の外国人が暮らす地域において、地域の第三者として「共生」の促進に取り組んできた。近年、日本人の高齢化に加えて、地域の国際化が大きな課題になっている。出入国在留管理庁によると令和2年末の在留外国人数は約290万人であり、5年間で約70万人も増加した。今後、国内の人口減少と併せて日本で生活する外国人の割合は増えていくだろう。私の所属する「芝園かけはしプロジェクト」の活動拠点となる埼玉県川口市芝園町のUR川口芝園団地は、人口4,600人の内、2,600人が外国人住人。高齢者の日本人と若者の外国人が暮らす、「将来の日本の縮図」と言える場所だ。ここでは、生活習慣の違いからゴミ捨て場が荒れる、騒音や日本人住民から異国の香辛料の匂いに対する苦情が出るなどの問題が多発した。さらに、両者の間には世代の違いもあり、子育てや地域行事などの社会的活動における接点がなく、双方の溝は深まる一方だった。

これらの問題を解決し、住民が「共生」できる地域づくりに取り組むため、2015年に「芝園かけはしプロジェクト」が発足した。多文化・多世代の住民が安心して生活できる地域づくりを理念に掲げて、人と人を繋ぐ「かけはし」としての役割を果たしつつ、問題解決と交流促進の2つのアプローチを実施してきた。

問題解決には、生活トラブルを解消し、一人ひとりの快適な暮らしの実現が不可欠だ。そこで、学生が住民に声がけしてワークショップを開催し、生活の悩みや団地生活に必要な情報について生の声を集めつつ、さらに、ゴミの出し方や生活音に関する注意など団地生活で役立つ情報も掲載した多言語の生活案内パンフレットを作成。現在、UR管理事務所での入居手続きの際に配付してもらっている。

また交流促進のためには、多文化交流イベントを開催してきた。その際、住民と学生がイベントの企画段階から活発に意見交換することで、各々が単なる参加者ではなく、一つのものを一緒に作り上げる制作者になることを意識してきた。イベントをつくり上げるプロセスから交流することが、継続的な関係促進に繋がるためである。

多言語の生活案内パンフレット配付などにより、住民からは「昔より大幅に住環境が改善した」という声が届くようになった。さらに、多文化交流イベントの参加者は延べ1,000人

を超えた。日本語が不自由な外国人には頼れる日本人の知り合いができ、日本人からは「これまでは機会がなかったが、外国人住人と 1 対 1 で話すことで、お互いの理解に繋がった」という感想を受けたこともある。

両者の継続的な出会いの機会ができたことで、団体発足前は 0 人だった外国出身の自治会役員が、2021 年度は役員 9 人の内、4 人にまで増えた。学生による様々な活動の結果、「共生」に向けた地道な成果が出てきたのだ。

芝園団地のように多様な背景を持つ人々が住む地域では、生活習慣や価値観の違いによる衝突が「共生」の壁となる。考えてみてほしい。言葉が通じない、生活習慣が異なる「見知らぬ隣人」と、いきなり警戒心なく交流できるだろうか？やはり、伝えたいことを言えずに不満がたまってしまい、相手のことをもっと知りたくても話をする機会さえもないことが多い。そこで、双方の立場や状況を理解している第三者の存在が、両者の「共生」を促進するのである。

また、学生は、「見知らぬ隣人」同士の間、交流の場を提供する「仲介者」の役割を果たしてきた。両者の間にあるステレオタイプや警戒心を解いて個人と個人の交流を促進しつつ、住民の意見を吸い上げることを重視しながら、第三者の立場から住民交流を促進してきた。その成果は「共生」の促進に効果的なアプローチであることを証明しているだろう。この取り組みは、「将来の日本の縮図」である UR 芝園団地で展開してきた。つまり、地域社会の未来に向けたロールモデルとなる活動である。今後、国や地方自治体は、我々学生のような地域の第三者を活用することで、多様な背景を持つ人々が意見交換する機会を支援しつつ、多様な住民が抱えている課題や意見を共有できるプラットフォームを構築することで、地域共生を推進することができるのである。